

R2プログラムの活用状況

プログラムの活用状況

「人権教育・生徒指導に関する取組状況調査」(R2年7月実施)

①プログラムを活用して校内研修を実施した
(「3月までに実施するよう検討している」を含む)

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
100%	100%	100%	78.5%

②プログラムを活用して、いじめ防止の授業等を実施した
(「3月までに実施するよう検討している」を含む)

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
86.3%	84.3%	48.9%	28.6%

③プログラムを活用して保護者・地域向けの研修を実施した
(「3月までに実施するよう検討している」を含む)

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
31.1%	22.2%	18.4%	7.1%

感想

学校

- ・プログラムを自校の実態に合わせて校内研修に取り入れることができた。講師用の手板や説明が分かりやすく、いじめの認知の仕方等、教員間で共通認識をもつことができた。
- ・各クラスで「人間関係づくり」のプログラムを実施し、その後、生徒会が中心となって友達との接し方についてのスローガンを作成し、全校の目標の一つとした。

地域・保護者

- ・保護者や地域の立場から見た子どもたちの見守りのポイントや、相談先が分かりやすく掲載されている。研修会等の機会があれば、情報共有ができ、より効果的なものになると思う。

成果と課題

成果

- 特別支援学校以外のすべての学校において、教員のいじめに関する知識の習得や、自校のいじめ防止等の取組の振り返りのために、プログラムを活用した校内研修が実施される。
- 小中学校の80%以上の学校で、いじめ理解学習や人間関係づくりプログラムが活用され、児童生徒からは「相手の気持ちに立つことの大切さについて考えることができた。」など前向きな感想が聞かれている。

課題

- △保護者・地域への周知・活用については、PTA総会にて活用する計画をした学校や保護者用プログラムを全家庭に配付した学校があったものの、全体的に十分な活用ができていない。

次年度のプログラム活用に向けて

- ・本年度は、県立校長会や市町村教育長会にてプログラムの周知を行ってきたが、新型コロナの影響により周知する機会が予定より少なくなってしまったため、次年度、研修会等にて改めて周知していく。
- ・地域の活用については、PTA・教育行政研修会にてプログラムを用いた研修を実施する予定である。また、地域学校協働本部の研修会や民生委員・児童委員代表者会等でも活用の周知を図る。



プログラム改訂スケジュール

- ・より効果的なプログラムとなるよう、活用した学校・団体からプログラムの改善点等、意見を収集し、令和3年度いじめ問題対策連絡協議会にて報告。
- ・令和3年度本協議会にて、プログラムの修正案や、より効果的な活用方法について協議し、改訂版を作成する予定。

R3年度7月
第1回連絡協議会
改訂の方向性について協議

改訂版(案)作成

R3年度1月
第2回連絡協議会
改訂版(案)について協議

改訂版(案)の
修正・完成

R4年度4月
プログラム改訂版を各学校・
関係機関等に配布・周知